

共通教養科目
(基盤形成科目)

科目名	人間文化入門		科目コード	CB101	
英文名	First-Year Experience		科目区分	【共通教養科目】 基盤形成科目(必修)	
担当教員	太田和 良幸 他	教員コード	154	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	1.大学生としての幅広い教養を身につける	30	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	10	
	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	20	5.学習の過程で発見した課題を探究する	10	
	3.論理的・批判的なものの見方を養う	20	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	10	
授業概要	大学生の初年次教育として、本学で目指す教育目的・内容を明らかにする。各回ごとに担当が違う”オムニバス形式”の講義となる。				
授業の狙い・到達目標	①大学で学ぶ学生として知識を探究する姿勢を身につけ、主体的に学ぶことができる。 ②個々の自己理解を確立し、本科目を大学教育の出発点として位置づけることができる。 ③各回の学習事項を吸収し、主体的な学びと高い学習意識の基礎を確立することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	初年次教育であり、内容は基礎的なことからである。しかし、基礎にこそ事物の本質がある。1つ1つの講義を疎かにせず取り組むこと。関連科目は、本学が提供する全講義科目である。				
授業外学習(予習・復習)	大学案内や履修案内・シラバスをしっかりと読み、本学の教育体系を把握する。今後の4年間でどのような学習になるのかを把握することが予習・復習となる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	特になし。各担当教員より資料等が配布されることがある。				
参考書・その他教材	・小玉幸永編『なでしこ八十一創立八十周年記念誌』愛国学園出版部(2019) ・その他、各担当教員より授業テーマにそって適宜配布する。				
課題に対するフィードバック	オムニバス形式であり、各回ごとに対応は異なる。担当の教員に指示に適切に従うこと。				
成績評価方法	・各回のリアクションペーパー(40%) ・授業への貢献度(30%)。 ・学外見学レポート(30%)				
成績評価基準	本学の学業成績判定に関する基準に照らし、評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	本講義は大学生活を円滑にスタートさせるために不可欠な初年次教育科目であり、高い目的意識をもって本講義に臨むことを期待する。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	〔代表連絡先〕原島雅之(harashima@aikoku-u.org) 〔教務連絡先〕学務課(gakumu@aikoku-u.org) 各回講義については、担当教員へ個別に連絡・相談すること(連絡先はWeb上に掲載する)				

1 回	学習内容 予習 復習	[大学論1] イントロダクション, 大学での学びや学生生活の特徴と意義 (教務委員会) 『履修案内』の単位制, 学内マナー, 学生生活の心得等に関する項目を精読し理解しておくこと。 講義内容を振り返り, 大学における学習の在り方についてさらに理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	[大学論2] 建学の精神と校訓 (太田和良幸 学長) 『履修案内』の建学の精神, 校訓, 教育目的等の項目を精読し理解しておくこと。 講義内容を振り返り, 4年間の学習目標と本学の学生として自身が大切にしたいことを定めること。
3 回	学習内容 予習 復習	[大学論3] 愛国学園の歴史 (アドミッションセンター) 愛国学園の歴史を調べ, 時代背景と創立の理念と願いについて理解しておくこと。 愛国学園の歴史を通して, 現在の私たちに求められていることを各自で考え整理すること。
4 回	学習内容 予習 復習	[大学論4] 創立者のことば (アドミッションセンター) 創立者・織田小三郎先生, 織田淑子先生が残された数々の貴重な言葉について調べておくこと。 創立者の言葉の意味や込められた願いを振り返り, 各自の学生生活において学びと実践を心がける。
5 回	学習内容 予習 復習	[学習論1] 大学において身につけるべき力とは何か① (教務委員会・他) 自分がこれから大学でどのような知識やスキルを身につけたいかについて考えておくこと。 PROGテストの結果や講義内容をもとに, 自分なりの大学での学びの目標を立ててみる。
6 回	学習内容 予習 復習	[学習論2] 大学において身につけるべき力とは何か② (教務委員会) ここまでの話をもとに, あらためて4年間の自分の学びについて考えを整理しておくこと。 講義内容について振り返り, 目標達成のための学修計画を立てること。
7 回	学習内容 予習 復習	[学習論3] ICTの理解, インターネット検索, 情報リテラシーの基礎等 (ICT委員会) 「ICTシステム・機器利用の手引き」を熟読して理解し, 質問をまとめておくこと。 講義中で指示する情報源より, 統計情報等を検索して入手, 保存, 管理, 提出する。
8 回	学習内容 予習 復習	[学習論4] 図書館における情報検索 大学図書館の利用 (図書館運営委員会) 事前に図書館を利用し, 大学図書館が公立図書館と異なる点を整理しておくこと。 大学図書館を活用して自身の学習活動を深め, 4年間の学修の成功に向けて取り組むこと。
9 回	学習内容 予習 復習	[学習論5] ライフプランの作成と仕事を通じて形成されるキャリア (キャリア支援委員会) 現在, 興味のある職業について, その仕事内容と必要な資格などを調べておくこと。 講義内容について振り返り, 目標達成のための計画を実践していくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	[学習論6] 大学の学びを支える多様なリソース (学生委員会) 学生が安全に安心して学ぶことができる学習環境とは何か, 自らの考えをまとめておくこと。 大学の施設・制度やそこに関わる多様な人々について理解を深め, 適切な利用と関わりを心がける。
11 回	学習内容 予習 復習	[学びの広がり1] 愛校心を育てるために (広報部会) 愛国学園大学の特徴や強み, 他大学にないものを探求しそれを伝える方法や工夫を考えておくこと。 愛国学園大学の特徴や強みを共有するために必要な取り組みを考え, 実践すること。
12 回	学習内容 予習 復習	[学びの広がり2] 「地域とつながる学び」を探求する (社会貢献センター) 身近な地域社会での取り組みや潜在するさまざまな学習のシーズ(seeds/資源)について調べておく。 大学で学んだ知識や思考を地域社会で実質化させ, 社会とともに成長する自己を涵養する。
13 回	学習内容 予習 復習	[学びの広がり3] 施設等における見学学習, アクティブ・ラーニング (教務委員会・他) 地域理解と学びの実践をテーマとして, 学外施設の見学学習を行う予定である。 人間文化学を基軸とした各専攻に関連する地域施設を訪問して, 実践知識の総合化をはかる。 履修生数等により見学施設, 及び時期が変更する場合がある。詳細については講義中に指示する。 指示された施設の概要と活動について調べ, それまでの教室学習と接続させることに努めること。 社会活動に接続する学習領域を再確認し, 講義で学んだ知識を社会で活用できるように心がける。
14 回		
15 回	学習内容 予習 復習	[まとめ] 知の可能性とこれからの学び (教務・FD委員会) これまでの話を振り返りつつ, 大学の学びの特徴や教育の狙いについて考えを整理しておくこと。 講義内容を踏まえ, 各専攻のカリキュラム内容などを理解し, 将来の進路選択の参考とすること。

科目名	現代と人間		科目コード	CB102	
英文名	Introduction to Contemporary Society Studies		科目区分	【共通教養科目】 基盤形成科目(必修)	
担当教員	岡庭 義行	教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日/2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	1.大学生としての幅広い教養を身につける	60	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	10	
	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	20	5.学習の過程で発見した課題を探求する		
	3.論理的・批判的なものの見方を養う	10	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本講は、現代社会に生きる私たちが直面するさまざまな課題とその解決に向けた多様な取り組みについて、建学の精神に基づき、共生と協働の観点から整理と解説を試みるものである。				
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 人間社会の諸問題を講義で解説した概念と理論を用いて説明することができる。 [到達目標②] 現代社会における共生と協働の実現を構想し自らの言葉で提案することができる。 [到達目標③] 身近な生活上の課題を発見し、科学的な思考に基づき説明することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	大学教育のスタートに当たり、思考力を広げ、深めていく力を養うための講義である。同時に具体的なテーマとして、現代社会の様々な問題点につき、体系的に理解することも目指す。				
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 日常生活の中で感じた疑問やバリアについて、体系的に整理しておくこと。 [事後学習] 講義で学習した内容を可能な限り自己の問題意識や生活上の課題に接続させ、その解決や理解を深めること。		授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特になし				
参考書・その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』書籍工房早山(2007) ・山岸俊男『安心社会から信頼社会へ』中公新書(1999) ・山本哲士『ディスカールの政治学 -フーコー、ブルデュー、イリイチを読む-』新曜社(1987) 				
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート[到達目標①](50%)、 ・講義中の小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](30%)、 ・講義への参加状況(20%) 				
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	日常生活におけるさまざまな事象や課題に関心をもち、今後の学びを展望しながら主体的に学習することが望ましい。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー共生社会と協働のしくみー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	「誰一人とりのこさない」持続可能な社会とSDGsの世界 持続可能な開発目標(SDGs)における17のゴールと169のターゲットを調べておくこと。 SDGsの課題と実現可能性について振り返り、自らの考えをまとめ理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	家族・ジェンダーの変化と「多様な性」の未来 家族の役割、ワークライフバランス、LGBT・SOGIなどの用語や概念について調べておくこと。 講義の内容を振り返り、身近な課題に結びつけながら自らの考えをまとめ理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	少子高齢化と福祉の社会学 日本における少子高齢化がもたらすさまざまな社会問題について調べておくこと。 少子高齢化の背景と福祉の問題について振り返り、自己の考えをまとめ理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	民族の共生と「想像の共同体」 異文化理解の経験や世界の人々との共生の可能性について問題意識を涵養しておくこと。 多様な人々との共生や協働の実現に必要な取り組みについて振り返り、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	観光とまちづくり 世界各地の観光資源、観光地・事業、みやげものなどについて具体的に調べておくこと。 観光による地域活性化・まちづくりの具体的な事例を整理し理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	環境問題と災害の社会史 地球温暖化に伴う環境変動、自然災害、公害などの具体的な事例や歴史を調べておくこと。 環境問題や自然災害が私たちの社会に与えた影響について自らの考えを整理し理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	EI(感情的知性):安心社会から信頼の構造へ 私たちがヒトやモノに「共感する」とはどのようなことだろうか、自らの考えをまとめておくこと。 信頼に基づく社会が生まれる要件について振り返り、共感の意味について理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	芸術、文化、サブカルチャー 芸術、文化、サブカルチャー(漫画、音楽、アニメ等)の具体的な事例について調べておくこと。 芸術・文化の領域が個人や社会を豊かにしている仕組みについて省察し理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	神話・伝説と現代社会 現代社会に伝承されている神話・伝説(都市伝説を含む)について事前に調べておくこと。 現代社会において神話・伝説が伝承・共有される理由や背景について振り返り理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	祈りの世界史 信仰の世界観、超自然的存在(妖怪、祖霊、神々など)の具体的な事例について調べておくこと。 私たちの暮らしの中にある日常と非日常という異質な原理の併存について振り返り理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	公衆衛生とQOL(ケアの社会学) QOL(Quality of Life)やケアの概念が生まれた歴史的背景や考え方について調べておくこと。 講義を振り返り、私たちにとって幸せな人生や質の高い生活とは何を意味するのか省察する。
13 回	学習内容 予習 復習	象徴と境界理論 花言葉、誕生石など、身近な象徴の事例を発見し、表象の意味と過程について調べておくこと。 象徴と分類の体系について振り返り、分類困難な境界領域の論理について理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	対立の構造と共生の論理 世界中に看取される紛争や対立の事例をニュースや新聞などで調べておくこと。 紛争や対立を乗り越え多様な人々が互いに尊重して共生する社会の実現について考察する。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー個性の尊重と多様性の未来ー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科目名	PBL演習		科目コード	CB103	
英文名	Practice of Problem-based Learning		科目区分	【共通教養科目】 基盤形成科目(必修)	
担当教員	日坂 彰	教員コード	137	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日/1時限	授業形態	演習
学位授与方針との対応	1.大学生としての幅広い教養を身につける	20	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	10	
	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		5.学習の過程で発見した課題を探究する	40	
	3.論理的・批判的なものの見方を養う	20	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	10	
授業概要	本授業はPBL(問題解決型学習)形式の授業である。ここでは、「学習者が問題を発見し、解決の見通しをつけて実行し、何らかの形で結論を得るための学習法」を共通する要素とみなし、ProblemとProjectの双方を意識した演習形式で進行する。				
授業の狙い・到達目標	グループで課題を解決するための演習である。この演習を通して、問題解決の思考方法、フレームワーク及び仲間と協力して問題解決を図る協働スキルを習得できる。				
授業内容のレベル・関連科目	PBL、AL(Active Learning)の基礎／共通教養科目全般				
授業外学習(予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	特になし				
参考書・その他教材	SDGs(Sustainable Development Goals)に関連する文献およびWebsite全般				
課題に対するフィードバック	教員はファシリテーターとして、適宜学習促進の役割を果たす。				
成績評価方法	グループ内での活動状況(貢献と内容及び発表)(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	普段より新聞、テレビ、インターネット等を通じて、対象課題に関心を向けておくこと。グループワークは、基本的にGoogle Classroomをプラットフォームとする。集合して作業を行う必要がある場合には、厳に三密を避けるなど感染症対策に留意すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org				

1 回	学習内容 予習 復習	この演習の目的 — PBL(問題解決型学習)とは シラバスを熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 PBLの事例について調査し、まとめておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(1) — グループ毎に取り組む問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
3 回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(2) — グループ毎に取り組む問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
4 回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(3) — グループ毎に取り組む問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
5 回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(4) — グループ毎に取り組む問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
6 回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(5) — グループ毎に取り組む問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
7 回	学習内容 予習 復習	グループ決定と計画作成 — 各グループ毎に作業手順や役割分担の決定 自分の希望テーマを明確にしておく。 GSE Classroomでグループ内コミュニケーションが図れることを確認する。
8 回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(1) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
9 回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(2) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
10 回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(3) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
11 回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(1) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
12 回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(2) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
13 回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(3) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
14 回	学習内容 予習 復習	発表と評価 — 各グループの発表と評価(1) グループ毎に発表準備をする 発表の振り返りをする。
15 回	学習内容 予習 復習	発表と評価 — 各グループの発表と評価(2) グループ毎に発表準備をする PBLのフレームワークを定着させる。

科目名	論理と表現		科目コード	CB104	
英文名	Logic and Expression		科目区分	【共通教養科目】 基盤形成科目(必修)	
担当教員	大屋 伸彦	教員コード	161	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日/1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	1.大学生としての幅広い教養を身につける		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	40	5.学習の過程で発見した課題を探求する		
	3.論理的・批判的なものの見方を養う	40	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		20
授業概要	本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とする。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学び、最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とする。				
授業の狙い・到達目標	1)論理的な思考力、伝達したい情報の構成力を身につけること。 2)その思考を文章で表現する技術を身につけること。 3)学術レポートが書けるようになること。				
授業内容のレベル・関連科目	レポートや論文とは何かを初めて考える機会となる。社会に出てから自分の意見や主張を論理的に説明できるレベルを目指したい。				
授業外学習(予習・復習)	シラバスを読んで予習復習を行うこと。毎回の授業で出す指示をよく聞いておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法第3版』慶応義塾大学出版会				
参考書・その他教材	戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫				
課題に対するフィードバック	授業中にレポート課題を与え、その内容や出来を受けて、後の授業において理解を補強するための解説を行う。				
成績評価方法	課題レポート(40%)、授業内レポート(40%)、授業への取組み(20%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	「単位を取ること」が目標ではなく、「文章で自分の考えを伝える能力を身につけること」が目標という意識をしっかりと持ち、主体的に取り組むことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:ohya@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:授業の内容、進め方などについて学ぶ シラバスをよく読んでおく 推薦した参考書や、類する書籍を探してみる
2 回	学習内容 予習 復習	レポートとはなにか、論文とはなにかについて学ぶ 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
3 回	学習内容 予習 復習	説得力のあるレポート・論文を書くために何が必要か 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
4 回	学習内容 予習 復習	読む力を鍛える 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
5 回	学習内容 予習 復習	レポート作成の5ステップ 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
6 回	学習内容 予習 復習	論文作成の5ステップ 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
7 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法① 題名の付け方、定義の仕方 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
8 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法② 引用の方法 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
9 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法③ パラグラフの書き方 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
10 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法④ 事実の意見を区別する 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
11 回	学習内容 予習 復習	論証型レポートの作成① 指定するテーマについて情報を収集し、要点をまとめておく 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
12 回	学習内容 予習 復習	論証型レポートの作成② 指定するテーマについて情報を収集し要点をまとめておく 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
13 回	学習内容 予習 復習	論証型レポートの作成③ 指定するテーマについて情報を収集し要点をまとめておく 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
14 回	学習内容 予習 復習	論証型レポートの作成④ 指定するテーマについて情報を収集し要点をまとめておく 授業内で説明した内容に沿ってレポートを作成する
15 回	学習内容 予習 復習	論証型レポートの作成⑤総括 これまでの授業内容の要点をまとめておく フィードバックを参考に文章を修正する

科目名	現代社会と女性		科目コード	CB105	
英文名	Contemporary Society and Women		科目区分	【共通教養科目】 基盤形成科目(必修)	
担当教員	中村 博子	教員コード	162	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	1.大学生としての幅広い教養を身につける	20	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	10	
	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	20	5.学習の過程で発見した課題を探究する	10	
	3.論理的・批判的なものの見方を養う	20	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	20	
授業概要	現代社会で大人になることの意味が「女性」と「男性」はどう異なり、どのように創られているのかについて理解するとともに、LGBTQ+についての理解を深める。また、主に女性がライフステージの各段階ごとに直面する課題やDV、虐待の具体的事例や支援策を知り、主体的に誇りをもって生き抜く力を養う。				
授業の狙い・到達目標	性差がどのように創られているのか、多様性を含め理解する。その上で「女性」がライフステージごとに直面する課題と、解決するための方策を知る。自分がジェンダーをどう捉え、それを踏まえどのように生きていきたいか、意見をまとめることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	教養科目として基本的な内容である。身近にあるジェンダーについて読み解き、どう生き抜くかを考えアウトプットすることを目指す。関連科目として「職業と人生」がある。				
授業外学習(予習・復習)	各回授業計画に沿って自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容を自分の視点でまとめ、シート提出やグループワークに備えること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。				
参考書・その他教材	青野 篤子(編著)「アクティブラーニングで学ぶジェンダー」 ミネルヴァ書房 森田 明美(編著)「よくわかる女性と福祉」 ミネルヴァ書房				
課題に対するフィードバック	配布シートや授業内のディスカッションにおいて、自分の考えが述べられているかについてフィードバックを行う。 また、最終講義で各自のプレゼンテーションについてフィードバックを行う。				
成績評価方法	講義への取り組み(40%)、課題レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	ジェンダーを取り巻くニュース等を積極的に確認し、女性の生き方について意識を向けること。自分がどのように生きていくかのヒントを得る視点と姿勢を持つことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	地方公務員および所属長として児童相談所に勤務(経験)。				
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション。講義の進め方や全体の概要、記事やニュースを見るとき視点などの説明 シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	性別はどうして決まるのか、そして誰が決めるのかについて、ディスカッションを通じて考える 指示した文献・資料、LGBTQ+に関するニュース等に目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	こどもがどのようにジェンダーを身につけていくか、遊びや物語を通して考える こどもの頃どのような遊びをしていたかについてまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	こども期から青年期の教育におけるジェンダーについて考える 小学生・中学生時代に、ジェンダーがどのように教えられ、教えられなかったかを考える 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	青年期以降の学校内外におけるジェンダーについて考える 就職や進学、社会人において男女差があるかどうか調べる 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	女性が歳をとること、老いることの意味について、ディスカッションを通じて考える 「女性が歳をとること」をテーマに記事や写真を用意する 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	これまでの講義の復習 これまでの講義の疑問点をまとめておくこと これまでの学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	女性に多い精神疾患について理解する 指示した文献などに目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	DV、児童虐待について理解する(担当教員の児童相談所の実務経験に基づく授業) DV、虐待に関するニュースを集め、要因について考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	母娘関係における葛藤、ジェンダーに与える影響について考える(担当教員の実務経験に基づく授業) 自分と母(または母的存在)との関係について、ポジティブ面とネガティブ面について考える 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	働く女性の活躍と現状について学ぶ① 女性が活躍している社会にはどのような業種や職種があるのか調べる 働くことについて、自分の考えを整理しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	働く女性の活躍と現状について学ぶ② 女性が活躍している事例についてインタビューする 自分のキャリアイメージを整理する
13 回	学習内容 予習 復習	結婚・家族制度とジェンダーについて考える 結婚願望の有無や結婚の条件について考える 自分の将来イメージを整理する
14 回	学習内容 予習 復習	これまでの講義の復習と発表に向けての説明 これまでの講義の疑問点をまとめておくこと これまでの講義の論点を整理しておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	モチベーショングラフを用いたキャリアデザインのプレゼンテーション 講義で学んだことを踏まえて自分なりのキャリアビジョンを描く 講義を経て自分の考えがどう変化したか、他者の意見を聞いて得たことは何かについてまとめる

科目名	情報基礎演習			科目コード	CB106	
英文名	Introduction to Information processing			科目区分	【共通教養科目】 基盤形成科目(必修)	
担当教員	呉 鳶	教員コード	157	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/4時限	授業形態	演習	
学位授与方針との対応	1.大学生としての幅広い教養を身につける	10	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	20		
	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	20	5.学習の過程で発見した課題を探究する	30		
	3.論理的・批判的なものの見方を養う		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	20		
授業概要	Windows環境をベースとしたシステムの構成を理解することから始め、情報セキュリティおよびデータ管理の基礎知識と技能を身につける。その上で、正確な文字入力や文章の編集、効率的なデータ管理の方法を学び、Microsoft Office (Word、Excel、Power Point)の操作スキルを段階的に習得し、課題解決のための実用的なツールとして使いこなせる能力を育成する。					
授業の狙い・到達目標	①コンピュータ(PC)の基本的な操作ができる。②Wordを用いて、日本語および英語の入力・編集ならびにビジネス文章を作成できる。③Excelの基本的な機能を多様な場面で活用できる。④PowerPointの基本的な機能を理解し、基礎的なプレゼンテーション資料を作成できる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学の勉学や社会生活において必要不可欠なコンピュータ(PC)の基礎技能を身につける。					
授業外学習(予習・復習)	予習:授業の計画を事前に確認して、操作の手順について積極的に予習に取り組む。復習:教科書などを確認しながら、授業で操作した内容を身につけるように振り返る。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	実務出版企画開発部編著『30時間でマスター Office2019』実教出版(2019)					
参考書・その他教材	担当教員が作成する配布資料 留学生(副読本):榎村麻里子等著『留学生のためのかんたんWord入門』技術評論社(2018)					
課題に対するフィードバック	特になし。授業で演習課題を出し、その場で操作の練習をする。					
成績評価方法	①パソコン(PC)の基本操作スキル(20%)、②日本語入力の課題(30%)、③Excelで簡単な表の作成(30%)、④平常点(20%)					
成績評価基準	①パソコン(PC)の基本操作がスムーズに行えること、②WordとExcelを用いて課題作成ができることなどについて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基づき、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業中、課題演習を行うため、必ず出席し、遅刻しないこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面で対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー(新年度に掲示)に対応する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(学習のポイントを概説し、達成目標を確認する。) シラバスを事前に確認する。 配布資料を再度確認し、学習のポイントと目標を明確にする。
2 回	学習内容 予習 復習	パソコン(PC)の基本操作、フォルダとファイルの概念 配布資料を事前に学習する。 演習課題を振り返り、基本操作のポイントを覚える。
3 回	学習内容 予習 復習	正確なタイピングの練習 配布資料を熟読し、キーボードの特徴を覚える。 キーボードの特徴、タイピングの要領と指の正しい使い方を復習して覚える。
4 回	学習内容 予習 復習	日本語の文字の入力方法(ローマ字)、漢字の変換と記号の入力 日本語のローマ字表記 演習課題を振り返り、基本操作のポイントを整理する。
5 回	学習内容 予習 復習	日本語の文章の入力、英語の文章の入力 配布資料をベースに、文章入力のポイントを予習する。 演習課題を振り返り、基本操作のポイントを覚える。
6 回	学習内容 予習 復習	Wordの基本操作、基本編集機能(1) 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	Wordの基本操作、基本編集機能(2) 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	コンピュータ(PC)の基本操作、到達度の確認 (Wordで日本語と英語の文章を作成する) 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、追加の演習課題を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	前回演習課題に関する講評、ビジネス文章の作成 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	前半(第2回から第9回)の復習、練習 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、基本操作のスキルを身につける。
11 回	学習内容 予習 復習	Excelの基本操作、表の作り方 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、基本操作のポイントを覚える。
12 回	学習内容 予習 復習	Excelの基本操作、表の作り方の練習(統計データの整理等) 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、基本操作のポイントを覚える。
13 回	学習内容 予習 復習	PowerPointの基本操作と機能の習得、演習課題の作成と発表 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	後半(第11回から第13回まで)を中心とした復習、練習 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、基本操作のスキルを上達させる。
15 回	学習内容 予習 復習	総括(ビジネスで役立つ資料の作成要領)、到達度の確認 (Excelで統計資料を作成する) 教科書の指定ページと配布資料を復習する。 教科書、配布資料を復習し、スキルアップのための自主練習を行う。

科目名	人文科学と人間		科目コード	CB207	
英文名	Introduction to Cultural Sciences		科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	原島 雅之	教員コード	142	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	1.大学生としての幅広い教養を身につける	50	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	10	5.学習の過程で発見した課題を探究する		
	3.論理的・批判的なものの見方を養う	30	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		10
授業概要	人類における長い進化の歴史を1つの枠組みとして、「人間」や「文化」、「言語」などに関する人文科学のさまざまな分野の知見を紹介していく。				
授業の狙い・到達目標	人類の起源(ルーツ)について知り、他の動物とどのような点で異なる進化を遂げてきたのかを考えることで、人間としての自分や身の回りの他者を捉え直すことができるようになる。 また、人間にとって不可欠である社会や文化がどのように形作られてきたのかを学ぶことで、現代社会における様々な問題や将来の社会に対する展望について考える力を身につける。				
授業内容のレベル・関連科目	主に1年次生を対象とした必修の基礎科目であることから、内容については基本的に初学者向けになるべく平易な解説を行う。 関連科目:「自然科学と人間」、「社会科学と人間」				
授業外学習(予習・復習)	自分自身を含め、「人間」やそれをとりまく「社会」というものがどうい うものかについて日頃から関心をもち考えておくこと。毎回の授業内容を振り返り、自分なりの要約(まとめ)を行っておくこと。		授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。				
参考書・ その他教材	ジョン・H・カートライト(著), 鈴木光太郎・河野和明(訳)「進化心理学入門」新曜社 ジャレド・ダイヤモンド(著), 倉骨彰(訳)「銃・病原菌・鉄—1万3000年にわたる人類史の謎」草思社 その他授業内で適宜紹介する。				
課題に対する フィードバック	小テストおよび小レポート等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。				
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から自分自身を含めた人間やそれをとりまく社会の諸事情に関心を持つことが求められる。				
科目に関連した 教員の実務経験	特になし				
担当教員への 連絡方法	harashima@aikoku-u.org				

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンスー「人文科学」とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	生物における進化のメカニズムー自然淘汰と進化的適応 生物の進化について自分なりに調べ考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	人類の進化の背景ー気候変動、動物の分類と比較 気候区分や動物の分類について自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	動物としての「ヒト」ー身体・行動・社会構造 動物と異なる人間の特徴について考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	脳と知能の進化ー脳の大きさとリスク、知能の起源 知能や頭の良さとはどのようなものか自分なりに考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	「心」の進化ー感情の不偏性、性的魅力と進化、心の病と進化 人間の感情のはたらきについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	「文明」の誕生ー1万3000年前に何があったのか 人類の「文明」や「社会」とはどのようなものか自分なりに考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	地理的環境と人類社会ー人口密度、環境の違いと社会の分化 「人口密度」について調べ、それが人間や社会にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	文化とは何か①ー文化はどのようにして生まれたか 自身が育った社会における「文化」について調べ、その特徴や意味をを考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	文化とは何か②ー技術の伝播と受容 人類社会に大きな影響を与えた「発明」は何か考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	文化とは何か③ー東洋文化と西洋文化 「東洋文化」と「西洋文化」について調べ、それぞれの特徴や違いをを考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	言語とコミュニケーション①ー文字の誕生と伝播 人類はなぜ「文字」を必要としたのか考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	言語とコミュニケーション②ー会話の科学 「あいづち」にはどのような意味があるのか考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	言語とコミュニケーション③ーコミュニケーションに必要なこと 「コミュ力」とはどのようなものか、それが高い人や低い人の特徴について考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	人文科学と人間ー授業のまとめ ここまでの学習内容を自分なりに整理しておくこと 学習した内容をふまえ、今後学習を深めたいテーマやトピックについて考えること